

国際会議から

第16回鉄道工学における設計・運用に関する
国際会議 (COMPRAIL 2018)

本会議は、鉄道工学における設計および運転に関する国際会議であり、第1回が1987年にドイツのフランクフルトで開催されて以来、おおむね2年おきに開催されています。今回は16回目の会議で、ポルトガルのリスボンで開催されました(図1)。本会議は日本人の比率が高い国際会議であり、今回の参加者80人程度(21か国)のうち、日本からは最多の20人が参加していました。

会議には12のセッションがあり、コンピューターシミュレーションを用いた列車運行および列車制御の最適化に関する内容を中心に、基調講演9件を含めて55件の発表がありました。筆者は、脱線事故の防止を目的に開発を行っている動的な軌間と平面性変位を測定する装置について発表を行いました(図2)。発表に対しては、同一区間での測定におけるデータ数の違いが精度に及ぼす影響に



図1 会場のTRYPリスボア
オリエンテホテル



図2 筆者の発表の様子



図3 リスボンのケーブルカー



坪川洋友
軌道技術研究部
軌道管理研究室
主任研究員

ついて質問を頂き、現在は波形レベルでの位置合わせを行った後にリサンプリングすることで影響を回避していることを説明しました。高頻度な軌道検測が可能になってきたことで、データの位置合わせなどの処理法への関心が高まっていると感じました。

今回の開催都市であるリスボンでは、バス、メトロ(地下鉄)、路面電車(トラム)、ケーブルカーなどの公共交通機関が充実しています。中でも7つの丘の街とよばれるほど坂の多いリスボンでは、3路線のケーブルカーが走っており、重要な移動手段となっています。そのうちグロリア線の車両は、走行する路線の傾斜に応じて台車が設計されており、車体への落書きは残念でしたが、非常に興味深いものでした(図3)。

正式名称：The 16th International Conference
on Railway Engineering Design and
Operation (COMPRAIL 2018)

開催国：ポルトガル(リスボン)

期間：2018年7月2日～4日

主催：Wessex Institute, UK

開催頻度：おおむね2年に1回

次回開催予定：未定

ホームページURL：<https://www.wessex.ac.uk/conferences/2018/comprail-2018>